

◆ソフトバンクグループ株式会社

【設立】 昭和56年9月3日

(旧「株式会社日本ソフトバンク」)

【資本金】 2,043億900万円

【主な事業概要】

移動通信サービスの提供、携帯端末の販売

インターネット広告、イーコマースサービスの提供・その他事業

【売上高過去3期分(連結)】

令和3年3月期 5兆6,281億6,700万円

令和2年3月期 5兆2,389億3,800万円

平成31年3月期 6兆935億4,800万円

【当期経営状況】

利益の大半は、10兆円以上の資金を世界中のベンチャー企業に投資するソフトバンク・ビジョン・ファンドだ。

今期4兆9,876億円の純利益を計上し、上場する日本企業の中で過去最高益を記録した。

(2018年3月期のトヨタ自動車の2兆4,939億円)

前期9,615億円から大幅に回復したが、世界的な株高の影響や過熱気味ベンチャー投資の現状は「反落」のリスクをはらむので業績の安定化が、課題といえる。

ソフトバンクグループ

<財務力>

支払能力に不安

流動性比率 不良 当座比率 53.4%(標準100%)以上

流動比率 83.9%(標準120%)以上

固定性比率 不良 固定比率 292.2%

固定長期適合率 106.3%(標準100%)以下

財務センターライン右下り 債務過大

健全性 やや不安 自己資本比率 26.1%(標準40%)以上

<収益力>

収益力 超優良 経営負担率 56.2%(標準90%)以下

収益効率 超優良

売上高経常利益率 22.4%(標準4~5%)以上

<キャッシュフローの特徴>

5兆782億円の利益であるが、投資未入金が6兆2、920億円あり、借入返済が5兆7909億円となり巨額支出があるが、新規借入が、8兆円となり最終キャッシュフローは、約1兆3000億円の増加となった。

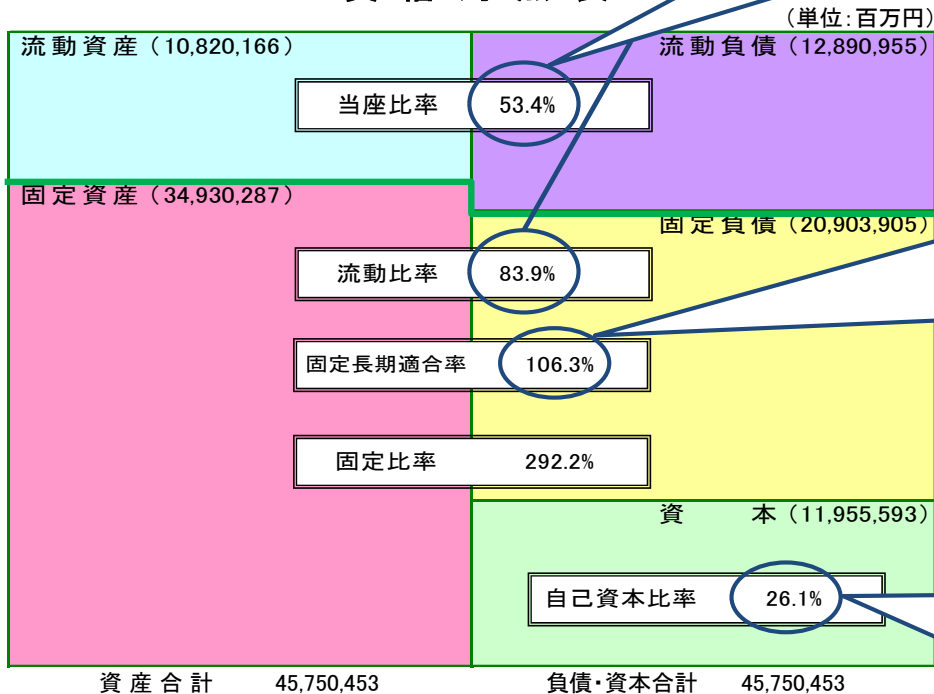
《ポイント》

収益力は、優良であるが投資収益に依存している為に不安定感は否めない。過去3年は黒字と赤字が、交互に来ている財務内容は支払能力に不安があり、債務が過大で財務安定性が低い。

ソフトバンクグループ株式会社

R3/3月期

貸借対照表

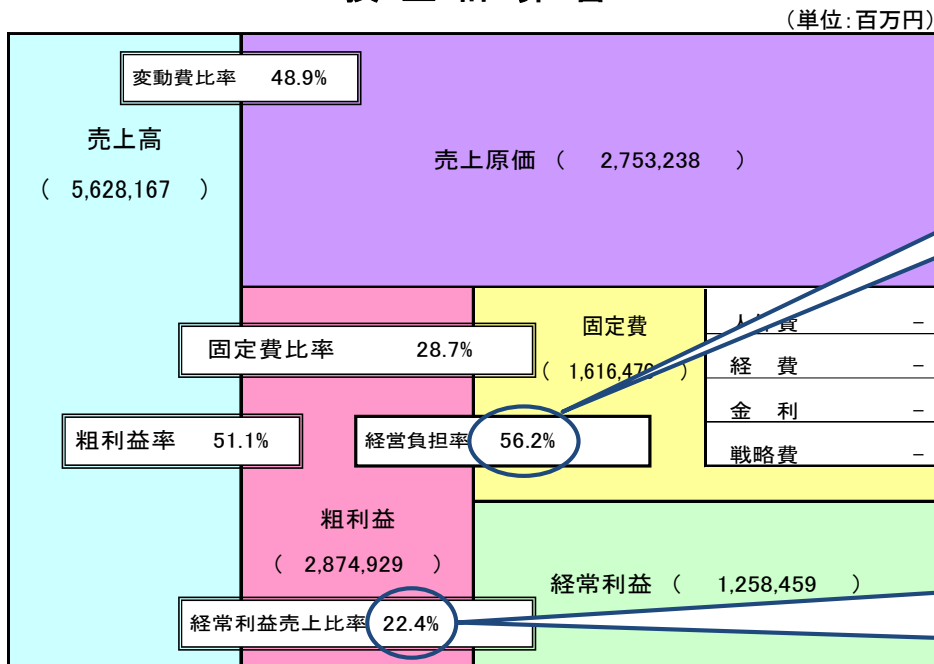


支払能力 不安
 当座比率53.4% (標準100%) 以上
 流動比率83.9% (標準120%) 以上

ここがポイント
財務安定性 やや不安
 財務センターライン 右下がり
 固定長期適合率 106.3% (標準100%) 以下

健全性 やや不安
 自己資本比率26.1% (標準40%) 以上

損益計算書



収益力 超優良
 経営負担率 56.2% (標準 90%) 以下

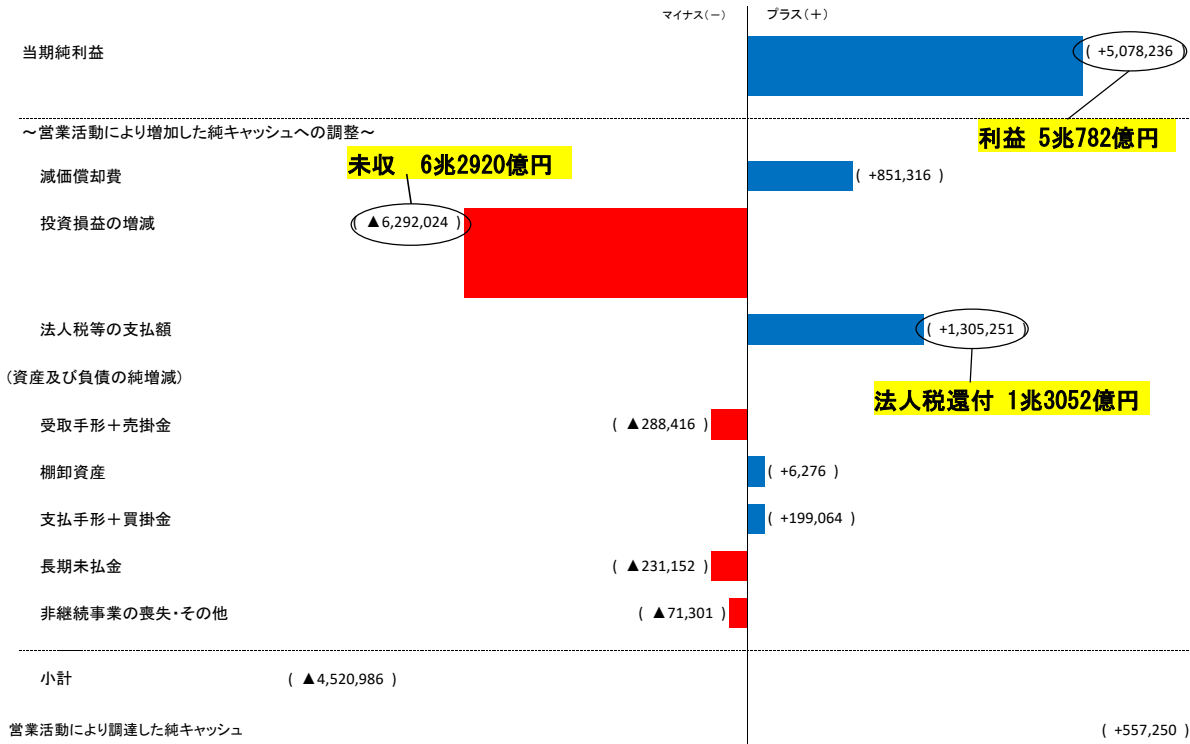
収益効率性 超優良
 経常利益売上比率 22.4% (標準4~5%) 以上

～キャッシュフロー計算書～

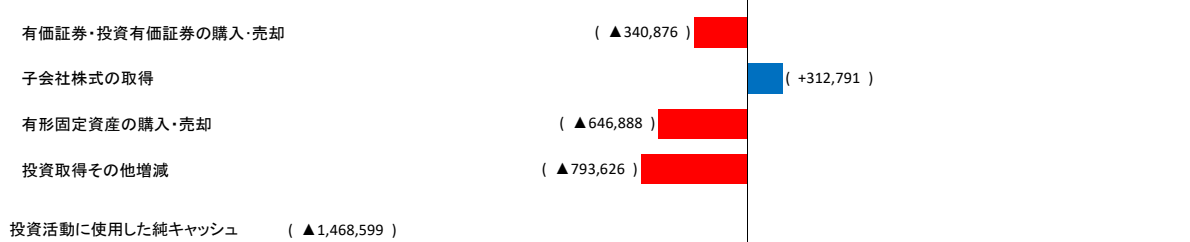
期間 2年 4月 1日 ~ 3年 3月 末日

(単位 百万円)

I 営業活動によるキャッシュフロー



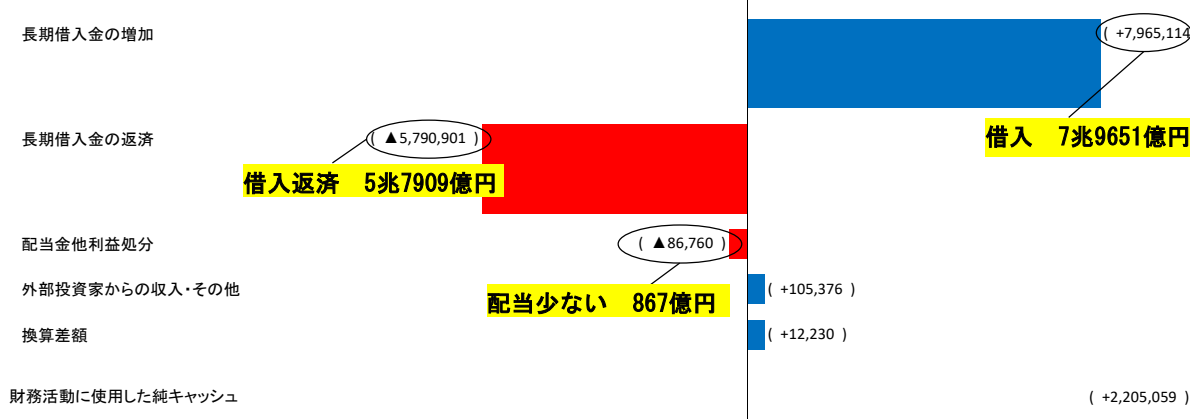
II 投資活動によるキャッシュフロー



I + II フリーキャッシュフロー(純現金収支)

(▲911,349)

III 財務活動によるキャッシュフロー



IV 現預金の増減(VI - V)

(+1,293,710)

V 現預金「期首」残高

(+3,369,015)

1兆2937億円
キャッシュ増加

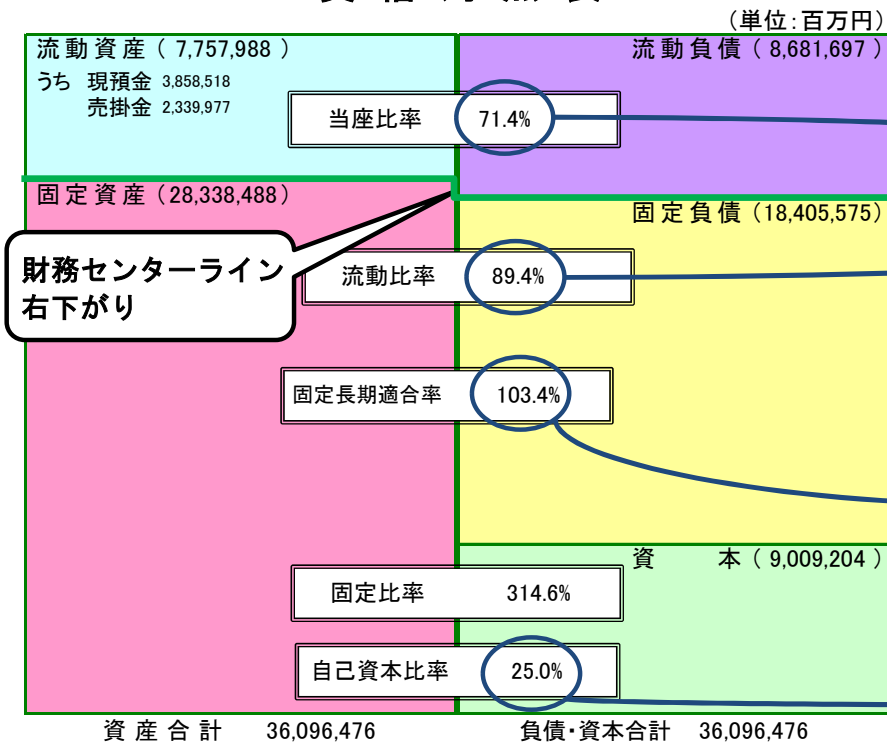
VI 現預金「期末」残高

(+4,662,725)

ソフトバンクグループ株式会社

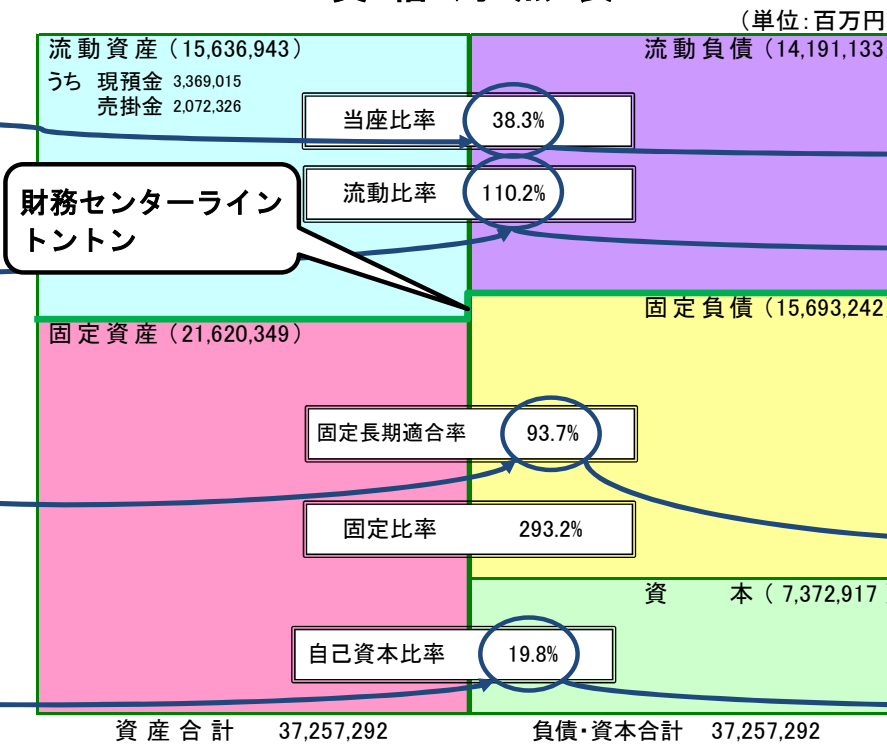
H31/3月期

貸借対照表



R2/3月期

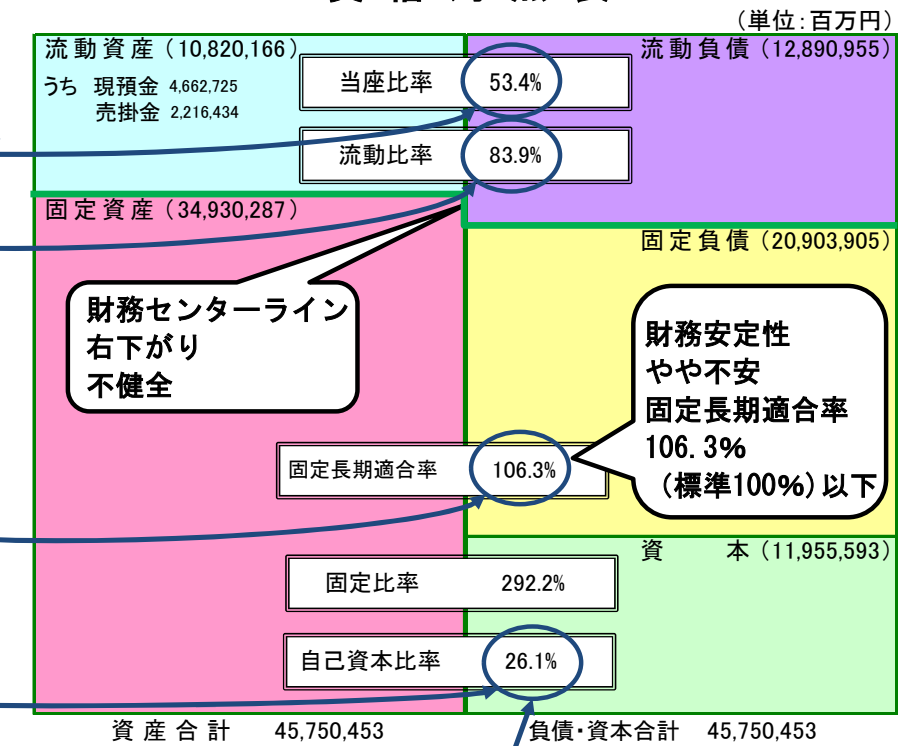
貸借対照表



支払能力 不安
当座比率53.4% (標準100%) 以上
流動比率83.9% (標準120%) 以上

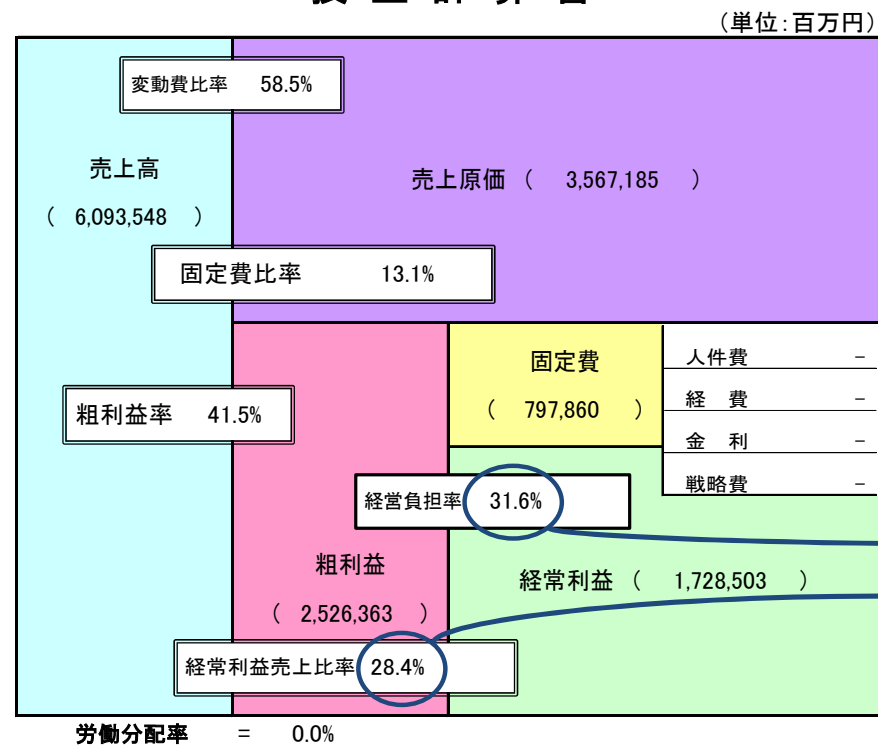
R3/3月期

貸借対照表

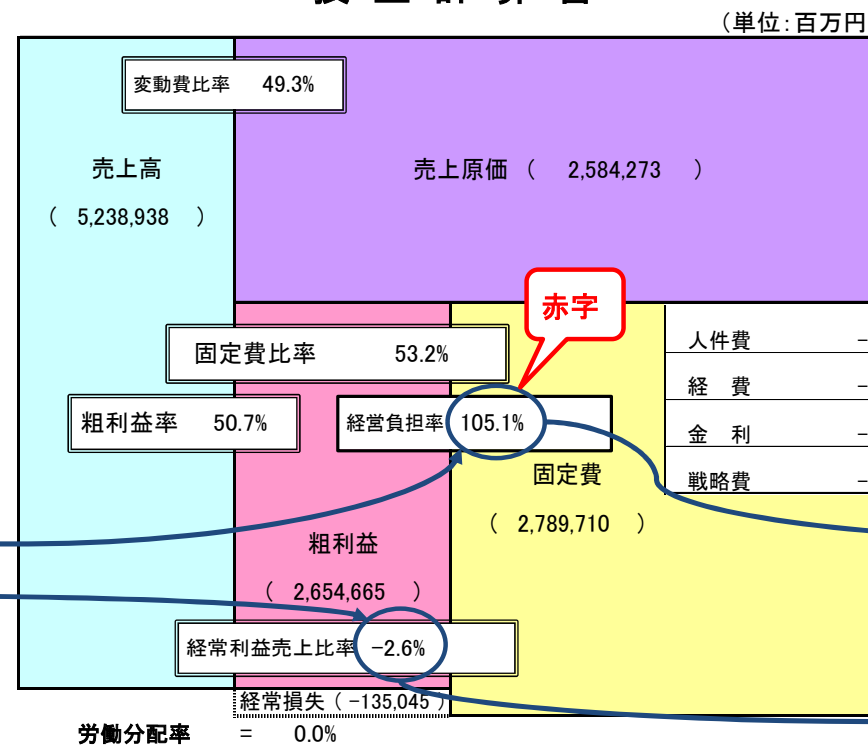


健全性 不安
自己資本比率26.1% (標準40%) 以上

損益計算書



損益計算書



損益計算書

